

おはようございます。今朝は、グランドジェネレーションデーです。

75歳以上の方々に敬意を表しつつ共に生きられる恵みに感謝し、神の愛のうちに年を重ねる祝福を覚えながら主なるイエス様を礼拝したいと願っております。

後ほど、祝祷後に、God bless you を賛美しながら、75歳以上の方々に小さなプレゼントをお渡しする時間を持ちたいと思っております。

また、私たちの教会に主がお与え下さった特別な恵み、介護保険指定事業所喜楽希楽サービスの尊いお働きを皆で覚え、感謝する時でもあります。

そこで今朝は、喜楽希楽サービスの所長である安東孝治さんに喜楽希楽サービスのお働きについてお話しをして頂きます。

「サタン・悪魔のうそ」

エペソ人への手紙 6：11－17

October.4.2026

エペソ人への手紙 6：11－17 (パウロ)

Preface

先週、尻切れトンボのように終わってしまったメッセージの続きから考えて行きたいと思います。

先ずは先週の復習からです。

Part One

これまで、今お読みしましたエペソ書の箇所から神が備えて下さった武具について学んで参りましたが、先週学びましたのは、最後の武具であり6つ目の武具である御霊の剣についてです。

御霊の剣は、神の武具の中で、唯一攻撃を担う武器であり、「御霊」という言葉から連想されやすい、高ぶる感情や奇跡のような体験などではなく、神のことばが御霊の剣だということを確認いたしました。

愚直に向き合い、読み、食し、我が血とし肉とする神のことばが御霊の剣であり、神の言葉のみが、サタン悪魔への攻撃に用いることの出来る私たちの唯一の武器であります。

ところが、その武器の鋭さを鈍らせ、切れない刀のようにしようとするのが、サタン悪魔の働きです。

サタン悪魔は、執拗にうそと偽りをもって私たちに攻撃を仕掛けてきます。

「神の言葉なんか、聖書の言葉なんか信頼に値しないでしょ。聖書に答えはありませんよ。そもそも、本当に神が言葉を発するのですか？ 発したとして、本当に神はそうに言っていますか？ 本当にそんな厳格に言っていますか？ もっと緩いんじゃないですか？ 神にとって不利になるから、あなたに不公平なことを言っているのですよ。大丈夫、やってごらんなさい。あなたの目に

慕わしく、好ましく、美味しそうな果実を食べたところで、直ぐに死ぬなんてことはないですから。そうして、あなたは遂に知るでしょう。神なんかいないっていうことをです」と、真理・事実に反する歪曲をもって、一見しますと攻撃には見えない、甘い、けれども私たちのたましいを引き裂く鋭い攻撃を仕掛けてきます。

そんな甘い言葉を見分け、逆に御霊の剣をもって切り返すことが出来るようにするのが、神のことばだと言うのです。

神のことばに、私たちがどれだけ親しみ、どれだけ蓄え、どれだけその甘さと苦さを味わい、神のことばに帰ろうとし、神のことばを思い起こし、神のことばに聞き、神のことばが喜びであり幸いであるという神のことばへの愛が、サタン悪魔の捻じ曲がった言葉に対して切り返すことの出来る唯一の方法だと言うのです。

ところが、最初の人アダムとエバは、そんなサタン悪魔の攻撃に、神のことばをもって切り返すことが出来ませんでした。

「あなたは私の骨の骨、私の肉の肉」と、一心同体で互いに愛し合う仲であったのに、互いに責任を擦り付け合い、サタンにまで自らの責任を押し付けながら、いがみ合う関係へと陥ってしまいました。

そして、そんなアダムとエバの血を引く私たちも同じように、神の声ではなく、サタン悪魔の声に、知ってから知らずか、意図してか意図せずか、聞き従ってしまいます。

これがサタンとの戦いであると、先週お話しさせて頂きました。

Part Two

サタンは、私たちが信じている事実・真理を根底から揺さぶってきます。

私たちの土台を、他の何かとすり替えようとします。

私たちが信頼しているたましいの土台を、偽りがなく誠実であられる神の御性質に全幅の信頼を寄せていることを、そっと、こっそりと、それとなく剥ぎ取り、土台にはならない砂のようなものにすり替えようとします。

知らぬうちに、いつのまにか、気付かぬうちに、土台を換えられている。

アダムとエバが換えられてしまった土台は、「神は誠実なお方ではなく、不公平で、傲慢で、度量のない、赦すことを知らない独裁者のような存在だ」ということです。

ところが神様は、罪を犯したアダムとエバに対して彼らを決してあきらめることなく、罪の結果被ってしまうようになったこの現実世界を生きる中で具体的に経験するのろいのような項目を、しっかり教え諭しながら、語りかけて下さいました。

語りかけるだけでなく、イエス・キリストの十字架という具体的救いの道を備え、何度でも、神の御前に出て来ることが出来る道筋を備えて下さいました。

それでも、アダムとエバは思ったことでしょう。

「私のような者が、私たちのような者が救われるのか？ 神は救って下さるのか？」

これこそが、サタン悪魔によってすり替えられてしまった砂のような土台です。

ここで一つ皆さんに質問ですが、聖書が書かれた究極的な理由は、何だと思いますか？

「救い」があるということです。

一度罪を犯した人が、永遠に罪の中を死ぬかのように生き、やがて滅びに至るのではなく、この現生のいのちにあっても喜び、満足し、幸いを噛みしめ、真の祝福が何たるかを見極めながら満ち足りる心を伴う生き方を生き、やがて神の国に入れて下さるという救いの道を備えて下さった、その救いの道に、人は何度でも立ち返ることが出来るという神の恵みを説くために、聖書は書かれ、残され、今を生きる私たちにも語り掛けるのです。

聖書は私たちに、「罪を犯してはなりません」と厳しく語りますが、それと同時に、「再び罪を犯したら、二度と神の赦しを受けることは出来ない」とは言いません。

私たちは、主イエス様の十字架をしっかりと掴むようになっており、私たち自身を頼りにしないようになっています。

恵みを慕い求め、神の愛とあわれみを根拠としながら主の御前に出て行き、大祭司であられるイエス・キリストを頼りに父なる神の御前に出て行くのであって、私たちの力やこの世のものを頼りに神の御前に出て行くではありません。

へブル人への手紙 4：14－16（パウロ）

大祭司イエス・キリストゆえに、私たちは大胆に、神の恵みの御座へと出て行くことができます。

アダムとエバは、「取り返しのつかない罪を犯してしまった。もう神の前に出ることは出来ない」と隠れましたが、この姿は一見しますと、自分の行いを悔いた姿のように見えますが、実のところ、自分の力で何とかするという、神の御座に近づくことを拒む、または忘れた巧妙な高慢であり、悪魔に土台をすり替えられた故に起こる行動のように思えます。

イエス様を銀貨 30 枚で売り飛ばしたことを悔いたイスカリオテのユダが、自ら命を絶つ自死した姿にも通じると思います。

神様は、そんなアダムとエバに、「私のところに出て来て、悔い改めなさい」と、サタン悪魔によってすり替えられた土台を再び、「神の赦し、神の愛、神

のいつくしみ」という土台に置き直して下さいました。

何度でもです。

一度や二度ではなく、何度でもです。

イエス様がこんなことを仰ったことがあります。

「あなたの兄弟があなたに罪を犯しても、わたしがそうであるように、7回を七十倍するまで、何度でも赦してあげなさい。」

この言葉の通り、何度でも、すり替えられそうになった、またはすり替えられてしまった土台を何度でも置き直して下さいました。

「イエス様を信じているというのに、こんな罪を、また同じ罪を繰り返し犯してしまった… もう、どんな顔して教会に行けばいいかわからない。どんな顔して、祈ればいいのかもわからない。どんな顔して聖書を開けばいいのか…」とサタン悪魔の攻撃を受けた時、「お前の言うように確かに私は罪深い。でも、だからこそ、イエス様が十字架に架かって死んでくださったのだ」と、神のことばに従った御霊の剣で、私たちは切り返すのです。

土台をすり替えられそうになった時、私たちは、「だからこそ、私のところに来て、悔い改めなさい。何度でも」という神のことばに従った剣をもって切り返すのです。

Part Two

聖書は、神様がどのようなお方なのかを、このような形で説明しています。

テトスへの手紙1：1－3（パウロ）

使徒パウロ先生が、ご自分の使徒職について説明しています。

ご自分が、イエス・キリストにある救いを宣べ伝える使徒となったのは、自分の力でもなく、自分の能力でもなく、ただ唯一神によって召し出されたのである、私は神のしもべです」と言います。

では、何のために召し出されたのか？

神に選ばれた人々が、信仰に進み、敬虔にふさわしい、真理の知識を得、永遠のいのちの望みがどれほど栄光に富んだものであるかを知るために、使徒として遣わされたと言います。

そして、何よりも目を引くのは、使徒とされたパウロを含め神の選び、つまり救いに与ったすべての人々に及んだその救いは、永遠の昔から、天地万物の創造の前からすでにご計画されていたことであり、その計画の成就を今この時目の当たりにし、その身に経験する恵みに与っていると言うのです。

すみません、少し言葉がややこしくなっています。

要するに、今使徒パウロ先生が仰りたいことは、「私が使徒として召し出されたのは、私があなたがたよりも信仰に厚く、敬虔で、優れているからなんていうことは1mmもなく、お決めになったことを決して変えることのない、偽

ることのない、後悔することもない、神の永遠のご誠実さが成ったことであり、お決めになったことは必ずやり遂げなさるお方の恵み以外の何物でもありません。だから、あなたがたに及んだ救いの恵みは、天地万物が造られる前からのものであることを知り、その神のご計画が今、あなたがたの身に起こったという事実を大いに喜びましょう、喜んでいいのです」ということです。

これが、何と対立するのかと言いますと、サタン悪魔の偽り・うそと対立します。

神様のご誠実さ、偽りのなさ、約束されたことを真実に行なわれ、熱心をもって成し遂げなさるという事実を捻じ曲げます。

サタン悪魔は、アダムとエバのことを通して確認しました通り、最初からうそつきであり、今もうそをつき続けています。

「神はいない。神のことばはない。神の言葉よりも人の言葉。神のなさったことよりも、人の歴史と功績。人は神なしの方が幸いである。神は不公平で、人は公平である。神に赦しはない。あなたの罪は赦されることがない」等々、見え透いたうそをもっともらしく思いこませ、信じ込ませる偽りの働きを今も働いております。

だから、御霊の剣を取るのです。

御霊の剣である神のことばを取り、毎日、毎瞬間、確認するのです。

使徒パウロ先生は言います。

「何をもって神のことばが真理であり、事実であるのかを確認するのか？それは、神は、神がお決めになったことを一度も破ったことはないし、約束を成就されるお方であり、そのうちの一つとして、私のような者をも使徒としてご計画通り召し出して下さったという事実があり、そのこと一つ取るだけでも分かるのではないのでしょうか」と読者に問うてきます。

さらに、私たちには、もっと大きな証拠があるように思います。

神のことばが真実であるという証拠があります。

約束通り、イエス・キリストをお送り下さったこと、それが神のことばが真実である、聖書の語る最大の証拠です。

アダムとエバが罪を犯した直後から、神は、救い主キリストをお送り下さると約束され、その約束を成し遂げて下さいました。

そして約束通り、その方を十字架に釘付けにし、死より復活させ、聖霊をお送り下さり、使徒たちを召し出し、地の果てまで福音を宣べ伝え、永遠の昔から約束して下された通り私たちにまで救いが及び、今この場に私たちが出てきていることだけを見ても、神様には偽りがなく、約束されたことを成し遂げなさるお方であることを知れるのではないのでしょうか。

これが御霊の剣であり、御霊の剣である神のことばを取って、私たちが毎回確認し、毎回刻み、毎回サタン悪魔に対して切り返していく内容なんだと思い

ます。

この真理において、私たち、揺るがされてはならないでしょう。

私という人を根拠として、または、この世のものを根拠とした倫理道徳性や、宗教的な何か感情の高ぶりなどの興奮ではなく、神のことばに基づく根拠のみによって、私の進む道が明らかになり、私が立っているところが堅固になり、私の目標や視線や方向が、揺るがないでしょう。

これが、御霊の剣を取るということです。

Part Three

御霊の剣を取って戦う戦いの事例としてイエス様が私たちに示して下さったのが、マタイの福音書4章に書かれている、悪魔の試みを受けたイエス様のお姿だと思います。

マタイの福音書4：1－11（パワポ）

サタンが言います。

「私にひれ伏すなら、この世のすべてをあなたにあげよう。」

するとイエス様、サタンの言葉を問題にもせず、一蹴されます。

「下がれ、サタン。」

私たちも、サタンがやって来てしきりに何か言ってきましたら、「下がれ、サタン。私は主にのみ使える。私はパンだけでなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる」と一蹴して、聖書を開くのです。

これが、私たちに出来る、御霊の剣を取ることなんだと思います。

そして、これこそが、私たちにとって最大の防御であり、サタン悪魔自身の最終的に、根本的に撃退する武器となります。

戦うまでもありません。

神に、神のことばと向き合うのです。

Conclusion

私たちは神のうちにあり、神の守りのうちにあり、神の導きの中にあり、神様に喜んで頂ける熱心によって神をじっと見つめる以外に頓着しない、よそ見をする暇のない神の民です。

御霊の剣、すなわち神のことばを取る私たちでありたいと願います。

お祈りいたします。

祝祷：御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。